

施策評価管理シート

2018(平成30)年6月作成

施策体系	政策	4	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち	担当部局名	部局長名
	基本施策	3	市民文化の創造		
	施策	1	文化振興		

1. 施策の基本方針 Plan

- 文化遺産や地域資源を市民共有の財産として大切に保護し、次世代に継承します。
- 名張らしさのあふれる魅力ある市民文化を育み、豊かな心と文化の息づくまちを目指します。
- 多様な文化資源を活用して、郷土に誇りと愛着を感じられるふるさとづくりを創造します。

2. 現状と課題 Plan

- ・多様で豊かな文化資源の活用を図り、広く情報発信することにより、地域の活性化につなげる仕組みづくりが必要です。また、名張市郷土資料館(埋蔵文化財センター)については、拠点施設としての環境整備、機能充実に取り組むとともに、所蔵資料等の活用をより一層進める必要があります。
- ・文化財保護や歴史文化の伝承について、専門知識を有する職員の育成を進めるとともに、地域文化を担う人材の発掘・育成に取り組む必要があります。
- ・少子高齢化に伴い、能楽をはじめ、地域で受け継がれてきた伝統文化を継承することが困難になりつつあることから、子どもたちがこうした伝統文化に触れる機会をさらに充実するとともに、引き続き後継者の育成に向けた取組を進める必要があります。

○ 施策指標(目標)及び達成状況 Plan Do

施策指標(目標)の内容(単位)		現状値(H26)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	進捗率
市民による自主的な文化芸術活動が活発に行われていることで、身近に文化や芸術に接する機会があると感じている市民の割合(%)	目標	-	-	-	33.0	
	成果	30.9	40.0	44.0		100.0%
青少年センター、名張藤堂家邸跡、夏見廃寺展示館、郷土資料館の入場利用者数(人【延べ数】)	目標	-	-	-	368,000	
	成果	287,792	328,624	367,771		99.7%
美術展覧会出席数(点【延べ数】)	目標	-	-	-	2,100	
	成果	1,420	1,831	2,012		87.1%

3. 課題解決への取組内容(平成29年度) Plan Do

計画	実績及び主な成果
<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料館において、学習講座、企画展示や体験活動等を開催するとともに、夏見廃寺展示館や名張藤堂家邸等の文化施設を活用して、名張の歴史や文化の魅力を発信し、郷土愛の醸成を図ります。また、昨年度購入した自家用スクールバスを、市内小中学校の児童生徒が文化施設等で校外学習活動を行う際の送迎車両として活用できるよう検討を進めます。 ・能楽のふるさとづくりを推進するため、引き続き観阿弥祭、名張子ども伝統芸能祭り等を開催するとともに、より一層の文化振興と、次世代への継承、関係者の交流を図るための活動の場の提供に取り組めます。 ・美術展覧会や市民文化祭の開催を通して、芸術文化活動の発表の場や文化に親しむ場を提供し、市民の芸術文化を育みます。 ・芸術文化活動の拠点となる青少年センター(ADSホール)では、指定管理者との連携を密にして、より多くの市民の皆様にご利用いただけるよう事業展開に取り組み、施設活用の向上を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料館では、常設展示に加え、企画展を6回開催し、また、子ども向けの体験学習を常時開設し、利活用の促進を図りました。併せて、館外においても地域のイベント、団体での来館が難しい放課後児童クラブ等への出張も実施しました。 ・平成29年度の文化財指定・登録においては、国登録有形文化財(建造物)に2件(4棟)、市指定有形文化財(書跡)に1件の追加がありました。 ・観阿弥創座の地 名張で、名張市観阿弥顕彰会の名張子ども狂言の会が能楽の顕彰活動を行っています。名張ユネスコ協会にその活動が評価され、【なばりのたからもの】に認定されました。それを受け、また、活動25年以上の成果を披露するため、10月22日に『名張能楽祭～なばりのたからもの～名張子ども狂言の会』を開催。先輩たちの出演や茂山七五三先生の出演もあり、たくさんの方々が来場されました。 ・美術展覧会は60回目を迎え、プレイベントとして「みえ県展 名張移動展」を6月10日～14日まで、名張で初めて開催。県内の市町での移動展開催は名張が9番目でありましたが、5日間で1,548名が入場し、過去最高の入場者数であったと評価を得ました。また、『名張子ども伝統芸能祭り』や市民文化祭も開催し、市民の芸術文化に親しむ機会を提供しました。 ・アドバンスコープADSホールは、平成29年12月11日～平成30年3月31日まで休館し、舞台吊天井落下防止対策工事と音響設備取替工事を実施。施設設備の充実を図りました。

4. 成果を踏まえた課題や現状 Check

- ・文化資源の活用面については、年に複数回若しくは昨年度と今年度等、特に小学校の学級単位との交流が増加しています。反復し学ぶこと、また、進級に応じた内容にするなど、活用回数をもとより効果的な学習が行なえたと考えております。「なばり学」との連携を含め、今後も最大限活用してまいります。
- ・恒例となる『名張子ども伝統芸能祭り』も平成29年度には8回目を迎え、子どもたちの活動をADSホールという大きな舞台で開催することにより、日頃の練習の成果を披露するとともに、今後ますます伝統芸能に対する意識の向上を図ります。
- ・今年度の施設改修により、ADSホールの充実した施設をたくさんの方々にご利用いただくとともに、いろいろなジャンルの事業を計画し、文化振興の拠点として事業展開を進めます。

5. 課題解決への取組内容（平成30年度） **A**ction

- ・郷土資料館は、来館者が年々微増しているものの、依然3,000人弱と決して多くはない状況です。市の中型スクールバス2台の活用はもちろんのこと、展示の充実、広報の強化等を継続して行なってまいります。
- ・観阿弥顕彰会、美旗のまちづくりや地元と協力し、『観阿弥祭』を開催。能楽のふるさとづくりを推進するとともに、関係者との交流を図ることで、能楽振興と次世代への継承に努めます。
- ・昨年、『第60回市美展』において、伊賀つばさ学園の生徒の作品を特別展示したが、高校生の出品も年々増えつつあり、高校のクラブ顧問に面談し、作品出品を依頼するなど、市民の芸術文化を育みます。
- ・ADSホールにおいては、文化活動の発表の場を提供し、たくさんの方に利用を呼びかけ、芸術文化の拠点として活気ある施設になるよう、文化向上に努めます。

6. 行政評価委員会による総合評価 **C**heck

現行通り施策の取組目標の達成に向け、各事業の推進を図ること。